

議題 5

英語教育改革について

英語教育改革として、大阪府立高等学校入学者選抜における英語資格（外部検定）の活用及び **Super English Teacher(SET)** を活用した **TOEFLiBT** 英語教育の推進について別紙のとおり決定する。

平成 25 年 9 月 20 日

大阪府教育委員会

大阪府立高等学校入学者選抜における英語資格（外部検定）の活用について（案）

1 概要

大阪府立高等学校入学者選抜学力検査の教科「英語」において、TOEFLiBTなどの外部機関が認証した英語力判定のスコア等を一定の得点率（下記※換算表参照）に基づき換算し、換算した得点と当日受験する学力検査の英語の得点とを比較し、高い方の得点をもとに最終的な学力検査の得点とする。

2 位置づけ

大阪府においては、英語の4技能を鍛えることが何よりも重要であると考え、小学校1年生から英語の音声・文字指導を開始する指導案を年内にも市町村教育委員会に示す予定をしている。

中学校の学習指導要領においては、英語の4技能を高めるように謳われているものの、これまでの高校の入学者選抜における学力検査においては、4技能を直接的に、かつ適切に測定する方法は開発できていない。今後は、英語の4技能を試す検査への移行が求められ、その実現に向けて研究および環境整備に努めていくことになるが、現時点では、すぐに4技能を試す検査を導入することは困難である。

今回のこの英語資格（外部検定）の活用は、上記の現状を補完し、一定の努力と実力を自ら証明した中学生に適正な評価を与え、大阪の児童・生徒の英語への学習意欲を高めるとともに、日本の英語教育が今後歩むべき方向性を示す意義を持つと考える。

3 具体的な内容・特徴

- * 入学者選抜において、受験者全員、従来通り学力検査を受験するので、既存の学力検査の枠組みに変化はない。
- * 外部機関が認証した英語力判定のスコア等が、すでに一定のレベルに達していることを出願時に申し出た受験生に対して、当該英語力判定のスコア等のレベルを大阪府教育委員会が定める換算表（下記※参照）に基づいて換算し、換算した得点と当日受験する学力検査の英語の得点と比較し、高い方の得点を、当該受験生の英語の学力検査の得点とする。
- * この検査方法は、大阪府立高等学校全校を対象に実施する。（当初は、グローバルリーダーズハイスクール 10校や、国際関係学科の高校を受験する生徒が主に活用するであろうと想定している）。
- * この検査方法は、平成29年度入学者選抜（現在の小学校6年生が高等学校を受験する年度）から導入する。

※換算表

	TOEFL iBT	IELTS	英検	読み替え率
※大阪府立高校入学者選抜 教科「英語」	60点	6	準1級	100%
	50点	5.5	(対応無し)	90%
	40点	5	2級	80%

《換算に用いるテストは、英語4技能を試す内容が含まれていること、普及状況、および問題の質等を総合的に考慮して選ばれたテストである。具体的には、TOEFLiBT(主に米国の大学で使用)、IELTS(主に英国の大学で使用)、実用英語技能検定試験（英検）である》

- ・上記換算表は、英語教育の専門家、及び学校関係者等の意見を交え、さらに、さまざまなテストスコア比較換算資料を参照して、慎重な検討を経て大阪府教育委員会が作成したものである。

- ・上記換算表の作成に当たっては、現在大阪府立高等学校に在籍している生徒が、文理学科等に入学する際に受けた学力検査の得点と、高校在学中に取得した英検および TOEFL iBT における点数との相関関係も考慮している。
- ・今後、上記以外のテスト機関が開発した英語のテストについても、英語 4 技能を試す内容が含まれていること、普及状況、および問題の質等を総合的に考慮して、追加の外部検定として導入する予定である。

4 他教科における外部検定資格の可能性

*今後、他教科（数学等）においても、客観的に教科の実力を証明できるテストがあれば、その導入についても検討して行く。

TOEFL iBT/IELTS/英検基礎情報

	TOEFL iBT	IELTS	英検
目的	大学のキャンパスや教室といった実生活でのコミュニケーションに必要な、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定。	イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほぼ全ての高等教育機関で認められている、英語力証明テスト。	社会生活に必要な英語を理解し、また使用できるかどうかのコミュニケーション力が評価される。
内容	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング
スコア	120点満点	1.0～9.0。9.0が最高得点帯。0.5きざみ。	英検1級～英検5級
受験者人数	世界全体100万人	世界全体170万人	国内230万人
時間	4時間	2時間45分	約2時間
費用	\$US 225 (HPより個人が申し込み、支払いはクレジットカード)	¥24,675	¥4,100 (2級)
時期	毎月2、3回実施される(国や地域による)	毎月最大4回実施される	年間3回
会場	全国合計年間30回～40回実施 全国44都市 含大阪	全国13都市 含大阪	全国約230都市・400会場で実施する 公開会場。

Super English Teacher (SET) を活用した TOEFLiBT* 英語教育の推進 (案)

(1) SET を活用した TOEFLiBT 教育とは

■ 目 標

- 英語学習のレベルを英語圏の大学への進学に匹敵するレベルに据え、海外でのアカデミックな環境下で成功できるレベルに英語 4 技能を高校 3 年間で引き上げる。

■ 教育内容・指導方法

- 高度な英語 4 技能の養成に向け、TOEFLiBT の出題方式に対応した指導を実施。(TOEFLiBT は、英語を母国語としない者の実践的な英語活用能力を測定するテストであり、各国の生徒、学生が広く利用。)
- 既存の TOEFLiBT 授業用教科書による指導を基本に、各校で教育課程を研究し指導方法・教材を開発。(府教委がモデルプラン作成)

■ 実施校・実施形態

- GLHS 10 校 (グローバルリーダーズハイスクール) と国際関係学科設置校 5 校等を対象に実施。当初は 6 ~ 8 校程度。
- 各校に TOEFLiBT 教育を行うコース (1 ~ 2 学級) を設定し、教育課程内で 6 単位 (3 年間) の科目として実施。

(2) TOEFLiBT 英語教育導入スケジュール

■ 26 年度

- TOEFLiBT 学習カリキュラムモデルの策定

■ 27 年度

- TOEFLiBT 教育実施校 6 ~ 8 校程度に SET を配置 (2 校兼務予定)

■ 28 年度

- TOEFLiBT 教育実施校を 15 校程度に拡大 (人材確保の状況に応じて)

(3) SET の役割

■ TOEFLiBT 教育の指導方法・教材の開発

- スピーキングの特別授業、語彙力増強の特別指導の実施
- 生徒に TOEFLiBT を受験させ、特に鍛錬の必要な技能の重点的なトレーニング

■ TOEFLiBT 教育の実践を踏まえた、各校のカリキュラム開発・改訂の検討

- TOEFLiBT 学習カリキュラムモデルを各校の実情に応じて改訂

■ 既存の英語教諭の能力を高め TOEFLiBT 教育を担う人材に育成

- 既存の英語教諭と、TT 方式で授業を担当し、ノウハウ共有
- カリキュラム開発・改訂、教材開発についても協働
- 授業公開や TOEFLiBT 教授法の研修会の開催

(4) S E T の任用方法

■ 公募選考

選考方法：書類審査（資格・経験等）、模擬授業、個人面接

応募資格：TOEFLiBT スコア 100 点以上 or IELTS スコア 7.5 点以上
（英語圏の難関大学院レベル）

教員免許非保有者も可（特別免許授与を前提）

日本国籍、大学以上卒業

大阪府公立学校教員も受験可

■ 特定任期付職員として採用

任 期：原則 3 年（5 年まで延長する場合もある）

給 与：特定任期付職員給料表 3 号級に格付け（予定）

年収約 7 4 0 万円（2 8 歳新採年収 約 4 4 0 万円）

任期終了後：教採テスト（特別選考）に合格すれば一般の英語教諭として採用可

(5) S E T 活用による新英語教育の達成目標—S E T 配置 3（～ 5）年後

■ 各校 2 学級生徒 8 0 人中 TOEFLiBT 80 点以上 5～14 人 60 点以上 42 人以上

■ 各校の英語教諭の内 TOEFLiBT 90 点以上 2 名 OR 100 点以上 1 名

(6) S E T 任期満了後の対応

■ 原則、S E T が育成し S E T 相当の能力を有する英語教諭が、TOEFLiBT 英語教育を担う

* 現時点においては、TOEFLiBT が世界標準の英語 4 技能を測るテストとして最も普及。
今後、これに類するテストが普及した場合、その活用を妨げるものではない。